

200601012A (別冊2)

平成18年度厚生労働科学研究補助金（政策科学推進研究事業）分担研究報告書

診断群分類を活用した医療サービスのコスト推計に  
関する研究  
(H16-政策-027)

別冊2 DPC導入が臨床検査に及ぼす影響の検討

平成19年3月

分担研究者	渡辺	清明
研究協力者	関口	仁
主任研究者	松田	晋哉

厚生労働科学研究費補助金（政策科学推進研究事業）  
診断群分類を活用した医療サービスのコスト推計に関する研究

分担研究報告書

DPC 導入が臨床検査に及ぼす影響の検討

平成19（2007）年3月

分担研究者 渡辺 清明

所属機関 国際医療福祉大学 役職 教授

研究協力者 関口 仁

所属機関 慶應義塾大学 役職 課長代理

診断群分類を活用した医療サービスのコスト推計に関する研究  
平成18年度分担研究報告書

DPC 導入が臨床検査に及ぼす影響の検討

分担研究者 渡辺 清明 研究協力者 関口 仁

研究要旨

平成15年度からDPC対象となった医療機関（主に特定機能病院）と平成16年度から対象となった医療機関（主に非特定機能病院）で、DPC導入後3年間の臨床検査の実施状況につきデータ収集し、経年的な変動について検討を行った。具体的には、平成15年度からDPCが導入された特定機能病院25施設と平成16年度から新たにDPC対象病院22施設を地域的な偏りがないように調査対象施設として選定し検討を加えた。また、診断群病別の変動調査では、MDC別に臨床検査を実施した件数を集計した。

その結果、平成15年度DPC対象施設の検査実施症例数の平成14年度の検査実施症例数を100%とした場合、平成15年度は123%、平成16年度は127%、平成17年度は132%、平成18年度は139%と増加しており、DPC対象症例数の平成15年度111%、平成16年度116%、平成17年度120%、平成18年度127%に比べ増加率が大であった。一方、平成16年度DPC対象施設における同様の比較では、平成16年度を100%とした場合、平成18年度の検査実施症例数は95%であるのに対し、DPC対象症例数は97%であり、検査実施症例数の減少が認められた。また、検査実施率の比較では、平成15年度DPC対象施設は95.6%～97.0%の症例に検査が実施されているのに比べ、平成16年度DPC対象施設は90.0%～92.0%と検査実施率が低下した。

MDC分類別の検査実施件数では、平成15年度および平成16年度DPC対象施設とも、MDC06 消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患の検査件数が最も多かった。他のMDC分類別の検査実施件数および各MDC分類の比率は異なる分布であった。最も症例数・検査数の多い領域からDPCコード胃の悪性腫瘍・胃全摘術と大腸の悪性腫瘍を選択し、平成15年度と16年度DPC対象施設の平成17年度と平成18年度の臨床検査について比較した。その結果、1症例あたりの検査実施点数は、各年とも差が認められた。さらに、平成15年度DPC対象施設に比べ、平成16年度DPC対象施設の検査実施点数合計は約50～60%程度しか検査されていなかった。

経年的にDPC対象施設の検査について研究した結果、平成15年度からDPC対象施設となった群と、平成16年度からDPC対象施設となった群では、同じ疾患でも検査の実施内容が異なり、一般病院より特定機能病院等の方が多く検査していることが浮き彫りとなった。つまり、DPCが特定機能病院から一般病院に移るに従い、臨床検査実施数が低下し、過小検査の傾向が認められる。また、その差は年々大きくなっていく傾向も示唆された。過小検査を防ぐなど、DPC

における適切な臨床検査の使い方を実施するには、今後ともこのような研究を継続し調査して行くことが重要である。

#### A 研究目的

DPC が導入されて 4 年が経つが、この間いかに医療の内容が DPC により変化したかを調査する必要性が生じている。

昨今、医療の中で検査や薬剤の無駄な依頼が問題となっている。患者にとって適切な検査をする事は多くの国民が望む所である。すなわち、臨床検査においては医療の中で検査の質の確保が最重要事項である。

DPC などの包括医療制度の導入前は過剰検査が問題となっていたが、DPC 導入後はむしろ過小検査が問題となる。つまり、診療報酬点数が疾患群により包括化されると、検査をしようとしまいと同じ医療費となってしまう、利潤追求には検査の削減が有利となってくる。

しかし、患者の側からみるとこれは問題であり、いかに包括化されても疾患の診断・治療にむけて適切な臨床検査がなされるべきである。これを具体化するに当たっては、まず臨床検査領域における DPC 導入による臨床検査実施の数的な変化を各医療機関別に捉える事が必要である。

本研究においては、平成 15 年度から DPC 対象となった医療機関（主に特定機能病院）と、平成 16 年度から DPC 対象となった医療機関（主に非特定機能病院）で、DPC 導入後の 3 年間の臨床検査の実施状況についてデータ収集し、経年的な変動について検討を行い、DPC 導入に際しての臨床検査の実施動態を研究した。

#### B 研究方法

##### 1. 調査対象施設（資料 1）

###### 1) 平成 15 年度 DPC 導入施設の抽出条件

平成 15 年 4 月（猶予期間があり実際には 7 月）から DPC が導入された特定機能病院等 82 施設のうち、平成 14 年度から平成 18 年度の 5 年間にわたり提出された E, F ファイル（平成 14 および 15 年度は様式 2 を含む）のレセプト電算コードがある程度セットされており、かつ平成 18 年度（平成 16～18 年度）本診断群分類を活用した医療サービスのコスト推計に関する研究班（以下松田班）外来調査に参加している 25 施設を調査対象施設として選定した。

###### 2) 平成 16 年度 DPC 対象施設の抽出条件

平成 16 年度から新たに DPC 対象病院（旧、DPC 試行病院）となった施設については、平成 15 年から平成 18 年の 3 年間提出された E, F ファイルのレセプト電算コードが比較的網羅されており、A 施設の抽出条件同様に平成 18 年度（平成 16～18 年度）松田班外来調査に参加している 22 施設を調査対象施設として選定した。

また、施設抽出においては、なるべく地域的な偏りが無いよう配慮した。

##### 2. 対象全症例数（資料 2）

MDC 分類 01 から 16 の診断群について、各年度別に対象症例数を調査し、MDC

分類ごとの経年変化を比較した。

### 3. 検査実施症例数(資料3)

資料2のMDC分類別の対象症例について、検査が実施された症例数について経年的に調査した。平成15年度DPC導入25施設については、DPC導入前年度(平成14年度)調査提出データとの経年変化を比較した。また、平成18年度とDPC導入初年度(平成15年度)と比較した。平成16年度よりDPC対象施設となった22病院についても同様に、導入年度(平成16年度)と平成18年度のデータを比較した。

### 4. 検査実施率(資料4)

資料3の検査実施症例数を資料2の対象症例数で除し、対象症例のうち検査を実施した検査実施率を年度別に算出した。

### 5. MDC別検査実施件数(資料5)

MDC別に検査を実施した件数を集計した。

### 6. 検査区分別実施数

医科診療報酬点数表における区分D(検査)の実施件数を、D000からD400の区分別に集計した。分類不能な検査についてはD999として処理した。平成15年度DPC対象25病院については、平成14年度より平成18年度の5年間を(資料6-a)、平成16年から対象となった22病院については平成16年度から平成18年度の3年間について集計した(資料6-b)。なお、特定機能病院等である平成15年度からDPC対象25施設は、平成16年度DPC対象22施設とは異なり、微生物検査を含む比較的一般的な検査は、基本的検体検査実施料および判断料に包括されているため、約半数はD025に分類されている。

### 7. 同一DPCコードによる臨床検査および画像検査

平成17年度と平成18年度の2年について比較することが可能な同一DPCコード分類を3種選択し、臨床検査および画像検査について、平成15年度DPC対象病院および平成16年度対象病院について集計した(資料11-a~13b)。

## C 研究結果

### 1. 調査対象施設の選出

平成15年度DPC導入施設25施設(A)、と、平成16年度からDPC対象施設となった22施設(B)を調査対象施設とし、地域的な偏りが無いよう、北海道・東北・関東・北陸・東海・関西・中国・四国・九州の9ブロックに分け抽出したが、北海道ブロックでは平成15年度よりDPC対象施設において経年連続データが得られる施設がなかった(資料1)。

抽出した各施設から提出されたレセプトコードがE,Fファイルに対応されていない場合は、各年最も適切と思われるコードにコーディングし集計した。しかし、解析・分析に用いたデータは、DPCコードの見直しに伴う変更や、診療報酬改訂に伴う、集計分類の変更、追加・削除等により、通年の連続比較が難しいのが現状であった。現在(平成18年度)の診療報酬に合わせるため、過去のデータについても、できる限り現在の診療報酬に近い形になるよう対応づけをし

直し集計した(追加資料;診療報酬改定に伴う集計先変更資料)。

これらの集計により、本研究の母集団および分析データは、DPC 導入各群を代表するデータとして評価に十分耐えうるものとなった。

## 2. 対象全症例数

MDC 分類 01 神経系疾患～16 外傷・熱傷・中毒、異物、その他の疾患について、平成 15 年度 DPC 対象施設(A)について対象全症例数を調査し、MDC 分類ごとの経年変化を比較した。DPC 導入年度(平成 15 年度)と平成 18 年度との症例数を比較した結果、合計の症例数は 14,801 症例(10.0%)増加していることが確認された。MDC 分類ごとに見た場合、16 外傷・熱傷・中毒、異物、その他の疾患の症例数が減少していた以外の 15 の MDC 疾患群については増加していた。また、調査データとして提出した平成 14 年度の症例数と比較では、合計で 24,646 症例(27%)増加していた。MDC16 においても平成 14 年度調査と比較すると平成 18 年度では増加していた。

一方、平成 16 年度から対象病院となった 22 施設(B)のデータでは、合計で 1,267 症例(3.2%)減少していた。

今回母集団として抽出した、平成 15 年度 DPC 対象施設(A)と平成 16 年度 DPC 対象施設(B)の対象全症例について、年度ごとに比較(B/A)した結果、平成 16 年度は 37.7%、平成 17 年度 35.2%、平成 18 年度 33.1%と年度別の症例割合は減少していた。

## 3. 検査実施症例数

各 DPC 対象症例に対し、実際に検査が実施された症例数を MDC 分類別に集計した(資料 3)。DPC 対象症例数と同様に年度別、MDC 別に経年変化を比較した。検査実施症例数も DPC 対象症例数同様な傾向が認められたが、経年比較において、平成 15 年度 DPC 対象施設(A)と平成 16 年度 DPC 対象施設(B)ではその割合に若干差異が認められた。

平成 15 年度 DPC 対象施設(A)の検査実施症例数の平成 14 年度の検査実施症例数を 100%とした場合、平成 15 年度(導入年度)は、123%、平成 16 年度は 127%、平成 17 年度は 132%、平成 18 年度は 139%と増加しており、DPC 対象症例数の平成 15 年度 111%、平成 16 年度 116%、平成 17 年度 120%、平成 18 年度 127%に比べ増加率が大きい結果であった。一方、平成 16 年度 DPC 対象施設(B)における同様の比較では、平成 16 年度を 100%とした場合、平成 18 年度の検査実施症例数は 95%であるのに対し、DPC 対象症例数は 97%であり、検査実施症例数の減少が認められた。このことは、平成 16 年度より DPC 対象施設(B)において、DPC 導入年度に比べ平成 18 年度では検査を実施しない症例数が増えたことを示唆する結果であった。

## 4. 検査実施率

検査実施症例数を DPC 対象症例数で除し、対象症例のうち検査を実施した検査実施率を年度別に算出した(資料 4)。DPC 導入年度からの検査実施率は、平成 15 年度対象施設(A)が平成 15 年度 97.0%、平成 16 年度 96.6%、平成 17 年度 95.9%、平成 18 年度 95.6%と経年微減であるが大きな変動は認められない。また、平成

16年度対象施設(B)でも同様に、平成16年度92.0%、平成17年度91.8%、平成18年度90.0%と同様に経年微減の傾向が認められた。

検査実施率の比較では、平成15年度DPC対象施設(A)は95.6%～97.0%の症例に検査が実施されているのに比べ、平成16年度DPC対象施設(B)は90.0%～92.0%とやや検査実施率が低い結果であった。

平成18年度を例にMDC分類別で比較すると、平成15年度DPC対象施設(A)では検査実施率が最も低い分類でも87.3%(MDC14)であるのに比べ、平成16年度DPC対象施設(B)では、63.1%(MDC14)であった。また平成15年度DPC対象施設(A)で実施率が90%未満の分類が2つであるのに対し、平成16年度DPC対象施設(B)の90%未満の分類は7つと差が認められた。

#### 5. MDC別検査実施件数と検査区分別実施件数の推移

MDC別に検査を実施した件数を集計した(資料5)。各年度のMDC分類別、臨床検査実施件数の検査区分別詳細についての集計結果は、平成15年度DPC対象施設(A)を資料6-aに、平成16年度DPC対象施設(B)を資料6-bに示した。特定機能病院等、平成15年度DPC対象施設(A)の入院検査は、基本的検体検査実施料に包括されるため、各検査区分別件数を平成16年度DPC対象施設(B)等他の施設と単純に比較することはできないものも多いが、基本的検体検査実施料に包括されないD008内分泌学的検査は、平成15年度DPC対象施設(A)、平成16年度DPC対象施設(B)とも経年的に実施件数が増加していた。

検査実施件数の年度推移を資料7-a, bのグラフに示した。平成15年度DPC対象施設(A)の導入年度の検査実施件数を100%とした場合、平成16年度が105%、平成17年度が100%、平成18年度が108%という結果であった。一方、平成16年度DPC対象施設(B)では、平成17年度98%、平成18年度93%という結果であった。

MDC分類別の検査実施件数では、平成15年度DPC対象施設(A)と平成16年度DPC対象施設(B)とも、MDC06消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患の検査件数が最も多いことは共通していたが、他のMDC分類別の検査実施件数および各MDC分類の比率が異なる分布であることが分かった(資料8, 9)。平成16年度DPC対象施設(B)では、MDC分類04呼吸器系疾患、11腎・尿路系疾患及び男性生殖器疾患の検査実施件数が平成15年度DPC対象施設(A)に比べ多い傾向にあった。

これらのことから、単純に、平成15年度DPC対象施設(A)と平成16年度DPC対象施設(B)との集計データで比較し判断することは難しく、病院の持つ機能も加味する必要があると思われた。

検査実施件数を対象症例数で除し1症例あたりの検査実施件数を経年的に比較した結果、平成15年度DPC対象施設(A)および平成16年度DPC対象施設(B)とも、MDC分類13の血液・造血器・免疫臓器の疾患がもっとも検査実施回数が多い結果であった(資料10)。両群とも経年変化であまり大きな変化は認められなかったが、平成16年度DPC対象施設(B)における、14新生児疾患・先天性奇形は検査実施件数が減少していた。

#### 6. 同一DPCコードによる臨床検査および画像検査

MDCコード分類で最も症例数・検査数の多い(20%以上)MDC06 消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患から、DPCコード 060020xx0100xx 胃の悪性腫瘍・胃全摘術と、060035xx0100xx の大腸の悪性腫瘍を選択し、平成15年度DPC対象施設(A)と平成16年度DPC対象施設(B)の平成17年度と平成18年度の臨床検査(資料11-a,12-a)、画像検査(資料11-b,12-b)について比較した。平成18年度は診療報酬改定があったため、平成17年度と平成18年度の点数を比較することは難しいが、臨床検査については、平成15年度DPC対象施設(A)と平成16年度DPC対象施設(B)を比較すると1症例あたりの検査実施点数は、各年とも差が認められた。平成15年度DPC対象施設(A)に比べ、平成16年度DPC対象施設(B)の検査実施点数合計は約50~60%程度しか検査されていない結果であった。画像検査においても、臨床検査ほどの違いはないが、同様の傾向が認められた。

MDC13 血液・造血器・免疫臓器の疾患からは、DPCコード 130030xx99x0xx に分類される、非ホジキンリンパ腫・手術・処置なしを選択し比較した(資料13-a, b)。程度は若干異なるが、同様の傾向すなわち、1症例あたりの点数は、検査平成15年度DPC対象施設(A) > 平成16年度DPC対象施設(B)であることが認められた。

このことは、同一DPC症例に対して検査を実施している内容が平成15年度DPC対象施設(A)と平成16年度DPC対象施設(B)では異なり、平成15年度DPC対象施設(A)の方が多くのコストをかけていることを意味している。

#### D 考察

平成15年度DPC対象施設(A)については、平成14年度から平成18年度までの5年間、平成16年度DPC対象施設(B)については平成16年度から平成18年度までの3年間分の提出データを集計し経年変化について解析した。

DPC対象症例数は、平成15年度DPC対象施設(A)では毎年増加していたが、平成16年度DPC対象施設(B)ではやや減少しており、異なる傾向であった。このことは、大学病院と一般病院の機能の違いや、病床稼働率の違い等に起因していることが示唆される結果であった。

検査実施件数においても、平成15年度DPC対象施設(A)と平成16年度DPC対象施設(B)では経年的に差が認められ、検査実施率では平成15年度DPC対象施設(A)で対象症例の95.6%~97.0%に対し検査が実施されているのに比べ、平成16年度DPC対象施設(B)では90.0%~92.0%と検査実施率が低い結果であった。このことだけで、検査実施の適正を論ずることはできないが、母集団により違いがあることが確認された。MDC分類別ではさらに実施率の差が顕著であった。1症例あたりの検査実施件数を経年的に比較した結果、平成16年度DPC対象施設(B)におけるMDC分類14以外は、あまり大きな変化は見られなかった。母集団による検査実施率の差は認められるもののMDC分類別に見た場合、著しい経年的変化は認められなかった。

同一DPCコードにおいて平成15年度DPC対象施設(A)と平成16年度DPC対象施設(B)における検査の実施状況を比較した結果、特に臨床検査において実施内容



が異なる傾向が認められ、平成 15 年度 DPC 対象施設(A)の方が、多くの検査を実施していることが確認された。

#### E 結論

経年的に DPC 対象施設の検査について研究した結果、平成 15 年度から DPC 対象施設となった群(25 施設)と、平成 16 年度から DPC 対象施設となった群(22 施設)では、同じ疾患でも検査の実施内容が異なり、一般病院より特定機能病院等の方が多く検査していることが浮き彫りとなった。また、その差は年々大きくなっていく傾向も示唆され、今後もこのような調査を継続し研究していくことが必要であると思われた。

## 添付資料

資料 1.	調査対象施設
資料 2.	対象全症例
資料 3.	検査実施症例数
資料 4.	検査実施率
資料 5.	MDC 別検査実施件数
資料 6-a.	検索分別実施件数 平成 15 年度 DPC 対象病院
資料 6-b.	検索分別実施件数 平成 16 年度 DPC 対象病院
資料 7-a.	検査実施件数の年度推移(1)
資料 7-b.	検査実施件数の年度推移(2)
資料 8.	DPC 導入年度と平成 18 年度の比較
資料 9.	平成 18 年度 MDC 分類別検査実施件数
資料 10.	1 症例あたりの検査実施件数
資料 11-a.	同一 DPC コードによる臨床検査の比較(1)
資料 11-b.	同一 DPC コードによる画像検査の比較(1)
資料 12-a.	同一 DPC コードによる臨床検査の比較(2)
資料 12-b.	同一 DPC コードによる画像検査の比較(2)
資料 13-a.	同一 DPC コードによる臨床検査の比較(3)
資料 13-b.	同一 DPC コードによる画像検査の比較(3)
追加資料	診療報酬改定に伴う集計先変更資料

### 資料1 調査対象施設

	H15年度よりDPC対象施設名	H16年度 集計施設	松田班外来調査 参加施設	H18年度集計施設 H14年度～H18年度	H16年度より DPC対象施設	ブロック
1	札幌医科大学医学部附属病院		◎			
2	北海道大学医学部附属病院				0	北海道
3	旭川医科大学医学部附属病院	◎				
4	弘前大学医学部附属病院		◎			
5	岩手医科大学附属病院	◎	◎	◎		
6	東北大学医学部附属病院				2	東北
7	秋田大学医学部附属病院	◎	◎	◎		
8	山形大学医学部附属病院	◎				
9	福島県立医科大学医学部附属病院	◎				
10	筑波大学附属病院	◎				
11	自治医科大学附属病院	◎	◎	◎		
12	獨協医科大学病院	◎	◎	◎		
13	群馬大学医学部附属病院	◎	◎	◎		
14	埼玉医科大学附属病院	◎	◎	◎		
15	防衛医科大学校病院	◎				
16	千葉大学医学部附属病院					
17	東京慈恵会医科大学附属病院	◎	◎	◎		
18	東京医科大学病院		◎			
19	東京女子医科大学病院		◎			
20	慶應義塾大学病院		◎			
21	日本医科大学付属病院		◎			
22	順天堂大学医学部附属順天堂医院		◎		9	関東
23	昭和大学病院	◎	◎	◎		
24	東邦大学医学部付属大森病院		◎			
25	日本大学医学部附属板橋病院	◎	◎	◎		
26	帝京大学医学部附属病院	◎	◎	◎		
27	杏林大学医学部付属病院		◎			
28	国立がんセンター中央病院					
29	東京医科歯科大学医学部附属病院		◎			
30	東京大学医学部附属病院	◎				
31	北里大学病院		◎			
32	東海大学病院		◎			
33	聖マリアンナ医科大学病院	◎	◎	◎		
34	横浜市立大学医学部附属病院					
35	新潟大学医学部附属病院					
36	富山医科薬科大学附属病院	◎				
37	金沢医科大学病院		◎			
38	金沢大学医学部附属病院	◎	◎	◎	2	北陸
39	福井大学医学部附属病院	◎	◎	◎		
40	山梨大学医学部附属病院	◎				
41	信州大学医学部附属病院		◎			
42	岐阜大学医学部附属病院					
43	浜松医科大学医学部附属病院					
44	名古屋市立大学病院		◎			
45	藤田保健衛生大学病院	◎	◎	◎	2	東海
46	愛知医科大学附属病院	◎	◎	◎		
47	名古屋大学医学部附属病院					
48	三重大学医学部附属病院		◎			
49	滋賀医科大学医学部附属病院	◎				
50	京都府立医科大学附属病院	◎				
51	京都大学医学部附属病院	◎	◎	◎		
52	大阪医科大学附属病院		◎			
53	関西医科大学附属病院		◎			
54	近畿大学医学部附属病院	◎	◎	◎		
55	大阪市立大学医学部附属病院	◎	◎	◎		
56	国立循環器病センター病院	◎	◎	◎	4	関西
57	大阪大学医学部附属病院		◎			
58	兵庫医科大学病院		◎			
59	神戸大学医学部附属病院		◎			
60	奈良県立医科大学附属病院					
61	和歌山県立医科大学附属病院	◎				
62	鳥取大学医学部附属病院		◎			
63	鳥根大学医学部附属病院	◎				
64	川崎医科大学附属病院		◎			
65	岡山大学医学部附属病院		◎		1	中国
66	広島大学医学部附属病院	◎	◎	◎		
67	山口大学医学部附属病院	◎				
68	徳島大学医学部附属病院	◎	◎	◎		
69	香川大学医学部附属病院	◎				
70	愛媛大学医学部附属病院				1	四国
71	高知大学医学部附属病院	◎				
72	福岡大学病院	◎	◎	◎		
73	久留米大学病院	◎	◎	◎		
74	産業医科大学病院	◎	◎	◎		
75	九州大学医学部附属病院					
76	佐賀大学医学部附属病院					
77	長崎大学医学部附属病院	◎			4	九州
78	熊本大学医学部附属病院	◎				
79	大分大学医学部附属病院	◎	◎	◎		
80	宮崎大学医学部附属病院					
81	鹿児島大学医学部附属病院					
82	琉球大学医学部附属病院	◎				
	計	43	49	25	25	22

## 資料2 対象全症例数

平成15年度DPC対象病院(A)

MDC	名称	H14	H15	H16	H17	H18	H18/H15
01	神経系疾患	6,356	7,457	7,361	7,723	8,307	112.9%
02	眼科系疾患	6,541	7,229	7,764	8,009	8,926	115.0%
03	耳鼻咽喉科系疾患	5,725	6,364	6,374	6,307	6,638	104.1%
04	呼吸器系疾患	6,830	7,641	7,436	8,446	8,654	116.4%
05	循環器系疾患	9,002	10,197	10,411	10,747	11,091	106.5%
06	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	16,639	18,311	19,309	21,334	22,032	114.1%
07	筋骨格系疾患	6,348	6,880	7,520	7,901	8,621	114.6%
08	皮膚・皮下組織の疾患	1,569	1,776	1,733	1,740	1,808	104.3%
09	乳房の疾患	1,088	1,262	1,364	1,510	1,423	104.3%
10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患	3,919	4,169	4,179	4,534	4,649	111.2%
11	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患	6,643	7,447	8,074	8,489	8,644	107.1%
12	女性生殖器計疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩	6,843	7,328	7,629	7,769	9,093	119.2%
13	血液・造血器・免疫臓器の疾患	2,363	2,799	2,975	3,017	3,357	112.8%
14	新生児疾患・先天性奇形	3,697	3,886	3,900	4,001	4,224	108.3%
15	小児疾患	862	796	843	863	970	115.1%
16	外傷・熱傷・中毒、異物、その他の疾患	6,321	7,049	8,057	6,911	6,955	86.3%
	合計	90,746	100,591	104,929	109,301	115,392	110.0%
	H14比	100%	111%	116%	120%	127%	

平成16年度DPC対象病院(B)

MDC	名称	H14	H15	H16	H17	H18	H18/H16
01	神経系疾患			2,085	1,972	2,141	102.7%
02	眼科系疾患			1,372	1,590	1,560	113.7%
03	耳鼻咽喉科系疾患			1,708	1,583	1,646	96.4%
04	呼吸器系疾患			4,715	4,936	4,821	102.2%
05	循環器系疾患			3,910	3,930	3,761	96.2%
06	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患			8,848	8,851	8,975	101.4%
07	筋骨格系疾患			1,751	1,767	1,715	97.9%
08	皮膚・皮下組織の疾患			608	613	596	98.0%
09	乳房の疾患			420	448	455	108.3%
10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患			1,356	1,196	1,268	93.5%
11	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患			4,333	4,447	4,136	95.5%
12	女性生殖器計疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩			2,639	2,117	2,148	81.4%
13	血液・造血器・免疫臓器の疾患			644	656	664	103.1%
14	新生児疾患・先天性奇形			697	619	587	84.2%
15	小児疾患			701	712	831	118.5%
16	外傷・熱傷・中毒、異物、その他の疾患			3,728	3,016	2,944	79.0%
	合計			39,515	38,453	38,248	96.8%
	H16年比			100%	97%	97%	

平成16年度DPC対象病院(B)/平成15年度DPC対象病院(A)			37.7%	35.2%	33.1%
-----------------------------------	--	--	-------	-------	-------

### 資料3 検査実施症例数

平成15年度DPC対象病院(A)

MDC	名称	H14	H15	H16	H17	H18	H18/H15
01	神経系疾患	5,770	7,202	7,130	7,397	7,940	111.4%
02	眼科系疾患	5,731	7,150	7,631	7,610	7,925	103.9%
03	耳鼻咽喉科系疾患	4,943	6,094	6,027	5,954	6,226	103.3%
04	呼吸器系疾患	6,340	7,596	7,371	8,372	8,589	116.5%
05	循環器系疾患	8,215	10,151	10,370	10,693	11,053	106.6%
06	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	14,201	17,770	18,702	20,482	21,280	113.8%
07	筋骨格系疾患	5,417	6,494	7,071	7,363	8,108	114.7%
08	皮膚・皮下組織の疾患	1,292	1,631	1,565	1,588	1,670	106.7%
09	乳房の疾患	973	1,249	1,336	1,471	1,390	104.0%
10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患	3,528	4,147	4,118	4,446	4,598	111.7%
11	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患	5,880	7,223	7,715	8,025	8,268	107.2%
12	女性生殖器計疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩	5,936	7,256	7,454	7,622	8,910	119.5%
13	血液・造血器・免疫臓器の疾患	2,190	2,765	2,943	2,995	3,319	112.8%
14	新生児疾患・先天性奇形	3,038	3,506	3,492	3,568	3,687	105.6%
15	小児疾患	793	792	835	860	955	114.4%
16	外傷・熱傷・中毒、異物、その他の疾患	5,302	6,576	7,579	6,403	6,433	84.9%
	合計	79,549	97,602	101,339	104,849	110,351	108.9%
	H14比	100%	123%	127%	132%	139%	

平成16年度DPC対象病院(B)

MDC	名称	H14	H15	H16	H17	H18	H18/H16
01	神経系疾患			1,994	1,859	1,973	98.9%
02	眼科系疾患			1,327	1,503	1,495	112.7%
03	耳鼻咽喉科系疾患			1,414	1,323	1,286	90.9%
04	呼吸器系疾患			3,728	4,015	3,701	99.3%
05	循環器系疾患			3,872	3,880	3,702	95.6%
06	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患			8,582	8,570	8,668	101.0%
07	筋骨格系疾患			1,571	1,575	1,476	94.0%
08	皮膚・皮下組織の疾患			552	545	524	94.9%
09	乳房の疾患			408	430	424	103.9%
10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患			1,329	1,150	1,215	91.4%
11	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患			4,120	4,246	3,911	94.9%
12	女性生殖器計疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩			2,479	2,001	2,012	81.2%
13	血液・造血器・免疫臓器の疾患			609	625	638	104.8%
14	新生児疾患・先天性奇形			608	463	378	62.2%
15	小児疾患			520	533	524	100.8%
16	外傷・熱傷・中毒、異物、その他の疾患			3,228	2,569	2,486	77.0%
	合計			36,341	35,287	34,413	94.7%
	H16年比			100%	97%	95%	

## 資料4 検査実施率 = 検査実施症例数/対象症例数

平成15年度DPC対象病院 (A)

MDC	名称	H14	H15	H16	H17	H18
01	神経系疾患	90.8%	96.6%	96.9%	95.8%	95.6%
02	眼科系疾患	87.6%	98.9%	98.3%	95.0%	88.8%
03	耳鼻咽喉科系疾患	86.3%	95.8%	94.6%	94.4%	93.8%
04	呼吸器系疾患	92.8%	99.4%	99.1%	99.1%	99.2%
05	循環器系疾患	91.3%	99.5%	99.6%	99.5%	99.7%
06	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	85.3%	97.0%	96.9%	96.0%	96.6%
07	筋骨格系疾患	85.3%	94.4%	94.0%	93.2%	94.0%
08	皮膚・皮下組織の疾患	82.3%	91.8%	90.3%	91.3%	92.4%
09	乳房の疾患	89.4%	99.0%	97.9%	97.4%	97.7%
10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患	90.0%	99.5%	98.5%	98.1%	98.9%
11	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患	88.5%	97.0%	95.6%	94.5%	95.7%
12	女性生殖器計疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩	86.7%	99.0%	97.7%	98.1%	98.0%
13	血液・造血器・免疫臓器の疾患	92.7%	98.8%	98.9%	99.3%	98.9%
14	新生児疾患・先天性奇形	82.2%	90.2%	89.5%	89.2%	87.3%
15	小児疾患	92.0%	99.5%	99.1%	99.7%	98.5%
16	外傷・熱傷・中毒、異物、その他の疾患	83.9%	93.3%	94.1%	92.6%	92.5%
	合計	87.7%	97.0%	96.6%	95.9%	95.6%

平成16年度DPC対象病院 (B)

MDC	名称	H14	H15	H16	H17	H18
01	神経系疾患			95.6%	94.3%	92.2%
02	眼科系疾患			96.7%	94.5%	95.8%
03	耳鼻咽喉科系疾患			82.8%	83.6%	78.1%
04	呼吸器系疾患			79.1%	81.3%	76.8%
05	循環器系疾患			99.0%	98.7%	98.4%
06	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患			97.0%	96.8%	96.6%
07	筋骨格系疾患			89.7%	89.1%	86.1%
08	皮膚・皮下組織の疾患			90.8%	88.9%	87.9%
09	乳房の疾患			97.1%	96.0%	93.2%
10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患			98.0%	96.2%	95.8%
11	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患			95.1%	95.5%	94.6%
12	女性生殖器計疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩			93.9%	94.5%	93.7%
13	血液・造血器・免疫臓器の疾患			94.6%	95.3%	96.1%
14	新生児疾患・先天性奇形			87.2%	74.8%	64.4%
15	小児疾患			74.2%	74.9%	63.1%
16	外傷・熱傷・中毒、異物、その他の疾患			86.6%	85.2%	84.4%
	合計			92.0%	91.8%	90.0%

## 資料5 MDC別検査実施件数

平成15年度DPC対象病院 (A)

MDC	名称	H14	H15	H16	H17	H18
01	神経系疾患	239,258	300,447	296,764	282,528	303,340
02	眼科系疾患	176,693	218,597	226,489	196,506	183,621
03	耳鼻咽喉科系疾患	116,673	130,799	127,941	119,981	123,498
04	呼吸器系疾患	263,595	305,004	315,697	337,520	339,770
05	循環器系疾患	382,985	452,339	488,583	438,278	491,862
06	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	569,961	612,202	667,801	659,529	705,184
07	筋骨格系疾患	209,956	234,197	242,238	241,386	278,464
08	皮膚・皮下組織の疾患	29,539	33,325	32,769	31,460	33,603
09	乳房の疾患	27,839	29,412	29,285	25,276	22,184
10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患	147,397	161,896	160,095	168,329	172,588
11	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患	204,584	228,556	235,092	230,873	244,391
12	女性生殖器計疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩	152,209	173,217	173,716	174,187	199,183
13	血液・造血器・免疫臓器の疾患	137,061	174,646	191,548	179,147	220,593
14	新生児疾患・先天性奇形	97,029	115,371	111,673	101,813	117,750
15	小児疾患	15,741	14,928	16,968	16,606	21,482
16	外傷・熱傷・中毒、異物、その他の疾患	148,680	185,068	226,556	182,115	191,149
	合計	2,919,200	3,370,004	3,543,215	3,385,534	3,648,662

平成16年度DPC対象病院 (B)

MDC	名称	H14	H15	H16	H17	H18
01	神経系疾患			78,339	67,060	68,078
02	眼科系疾患			27,292	28,974	25,567
03	耳鼻咽喉科系疾患			20,100	16,782	16,208
04	呼吸器系疾患			142,457	150,952	140,957
05	循環器系疾患			136,108	141,888	132,310
06	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患			229,766	234,403	220,331
07	筋骨格系疾患			43,725	37,792	36,536
08	皮膚・皮下組織の疾患			11,607	11,059	10,769
09	乳房の疾患			5,457	5,160	5,147
10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患			57,881	48,938	48,381
11	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患			136,920	143,343	133,258
12	女性生殖器計疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩			39,110	31,102	31,740
13	血液・造血器・免疫臓器の疾患			39,297	41,593	40,155
14	新生児疾患・先天性奇形			21,328	13,230	4,960
15	小児疾患			11,364	11,759	11,557
16	外傷・熱傷・中毒、異物、その他の疾患			88,577	81,631	85,561
	合計			1,089,328	1,065,666	1,011,515

## 資料6-a 検査区分別実施件数 平成15年度DPC対象病院

平成15年度DPC対象病院 (A)

点数表	区分	H14	H15	H16	H17	H18
		件数	件数	件数	件数	件数
D000	尿・糞便等検査	17,573	18,861	23,456	13,100	40,466
D005	血液形態・機能検査	54,626	54,024	70,658	44,382	70,972
D006	出血・凝固検査	17,894	20,796	28,054	19,903	31,487
D006-2	血液細胞核酸増幅同定検査	1	1	1		18
D006-3	Major bcr-abl mRNA核酸増幅精密測定					6
D006-4	進行性筋ジストロフィー遺伝子検査					1
D006-5	染色体検査					1,734
D006-6	免疫関連遺伝子再構成					14
D007	生化学的検査(I)	123,173	111,696	121,316	81,468	125,140
D008	内分泌学的検査	42,179	51,792	56,613	63,034	72,929
D009	腫瘍マーカー	5,215	6,485	7,053	9,518	10,806
D010	特殊分析	2,079	2,004	2,144	2,236	2,215
D011	免疫血液学的検査	4,302	4,942	7,282	7,122	9,167
D012	感染症血清反応	26,388	32,679	36,618	36,028	47,996
D013	肝炎ウイルス関連検査	5,049	4,688	5,444	6,556	8,404
D014	自己抗体検査	17,313	18,931	18,964	20,511	22,900
D015	血漿蛋白免疫学的検査	73,446	81,325	104,699	76,309	117,523
D016	細胞機能検査	2,718	3,148	2,853	3,272	1,958
D017	微生物学的検査	14,153	16,286	21,460	15,992	17,883
D025	基本的検体検査実施料	1,474,169	1,698,816	1,722,662	1,723,273	1,735,793
D026	検体検査判断料(管理加算 I, II)	126,925	145,259	142,478	139,046	143,611
D027	基本的検体検査判断料(I)	110,338	112,812	113,865	115,399	119,734
D100	病理学的検査	40,644	52,427	52,905	53,797	54,409
D104	病理診断料	23,203	26,921	27,889	29,358	30,880
D105	病理学的検査判断料	6,202	7,175	6,977	6,570	6,314
D200	呼吸循環機能検査等	83,899	116,213	120,234	122,125	125,807
D215	超音波検査等	61,830	67,358	67,485	65,941	67,921
D218	監視装置による諸検査	301,704	355,152	387,114	376,606	453,413
D235	脳波検査等	8,979	11,271	11,185	10,126	11,654
D239	神経・筋検査	6,532	6,347	5,599	5,901	5,967
D243	耳鼻咽喉化学的検査	11,093	11,878	9,613	8,179	8,447
D255	眼科学的検査	169,421	214,707	224,158	198,672	184,707
D283	臨床・神経心理検査	841	983	853	558	764
D286	負荷試験等	23,555	23,311	25,475	21,811	13,190
D292	ラジオアイソトープ諸検査	48	21	32	22	32
D295	内視鏡検査	20,714	23,780	23,603	23,494	24,396
D400	診断穿刺・検体採取料	40,711	63,544	89,035	75,651	73,564
D999	分類できないもの	2,283	4,371	5,438	9,574	6,440
	総計	2,919,200	3,370,004	3,543,215	3,385,534	3,648,662
	平成14年度比	100%	115%	121%	116%	125%
	平成15年度比		100%	105%	100%	108%



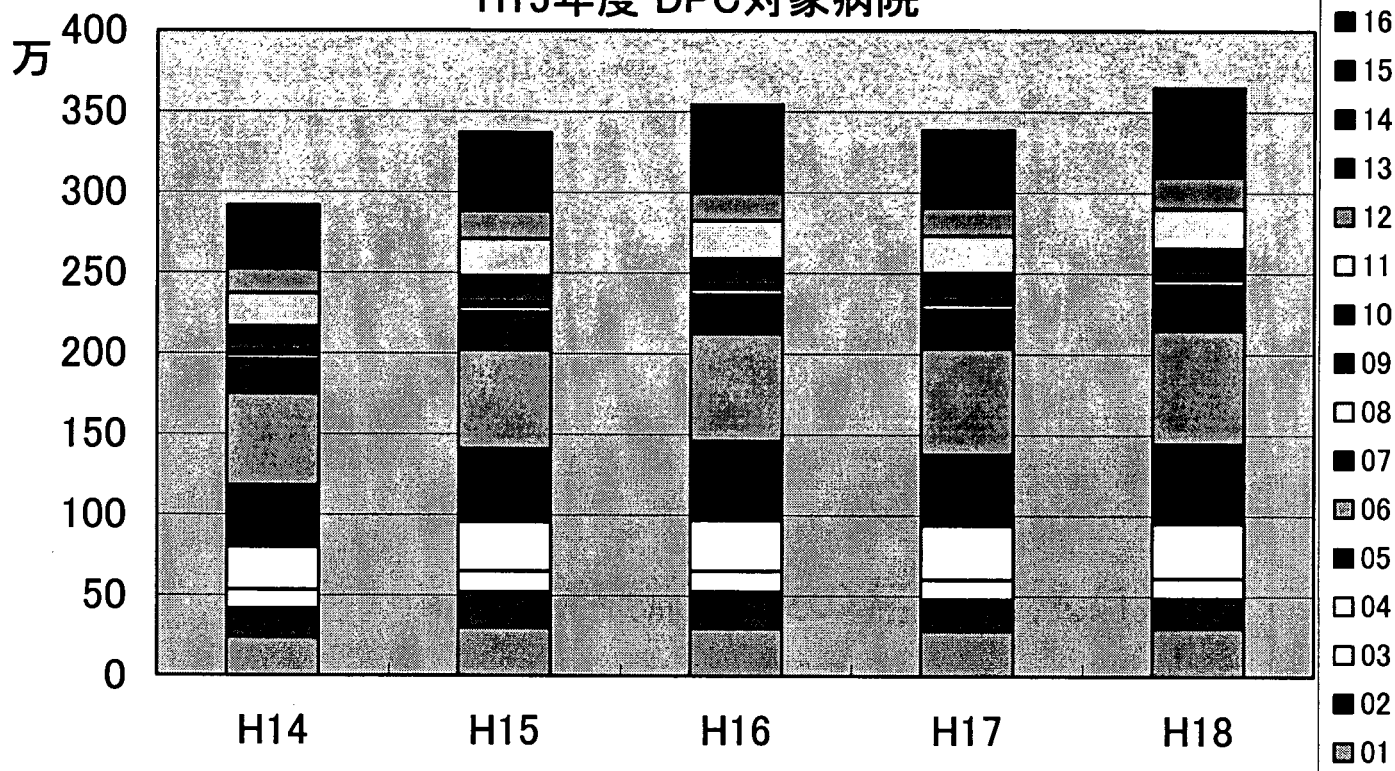
## 資料6-b 検査区分別実施件数 平成16年度DPC対象病院

平成16年度DPC対象病院(B)

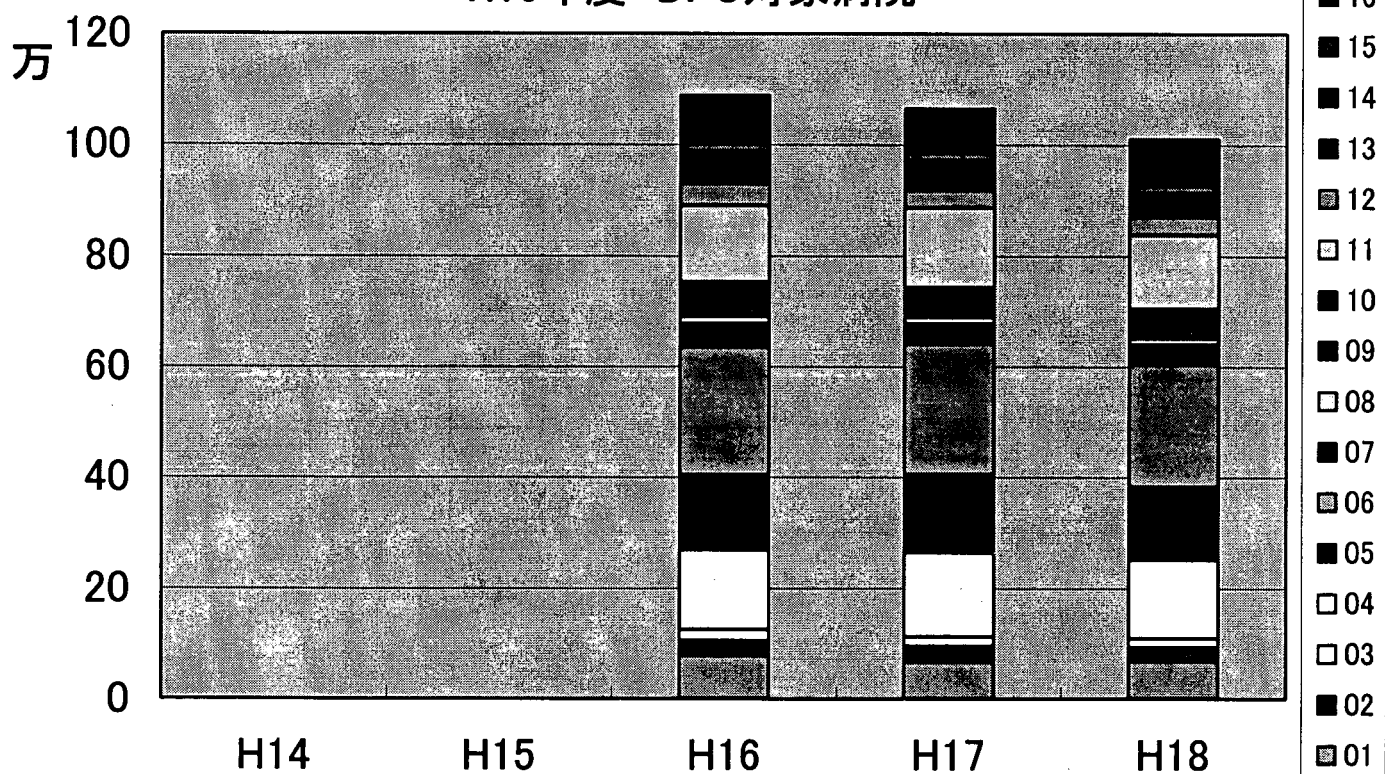
点数表	区分	H14	H15	H16	H17	H18
		件数	件数	件数	件数	件数
D000	尿・糞便等検査			53,967	52,369	54,716
D005	血液形態・機能検査			144,576	144,980	134,133
D006	出血・凝固検査			33,858	34,739	26,033
D006-2	血液細胞核酸増幅同定検査					
D006-3	Major bcr-abl mRNA核酸増幅精密測定					1
D006-4	進行性筋ジストロフィー遺伝子検査					
D006-5	染色体検査					178
D006-6	免疫関連遺伝子再構成					6
D007	生化学的検査(I)			241,967	241,498	228,941
D008	内分泌学的検査			8,273	9,685	10,006
D009	腫瘍マーカー			2,298	2,148	2,410
D010	特殊分析			232	186	182
D011	免疫血液学的検査			8,906	8,196	6,971
D012	感染症血清反応			19,581	19,226	18,877
D013	肝炎ウイルス関連検査			21,245	18,237	16,696
D014	自己抗体検査			3,836	3,876	3,567
D015	血漿蛋白免疫学的検査			95,316	93,994	89,458
D016	細胞機能検査			336	386	344
D017	微生物学的検査			31,789	29,573	29,706
D025	基本的検体検査実施料					
D026	検体検査判断料(管理加算I,II)			162,870	154,886	146,358
D027	基本的検体検査判断料(I)					
D100	病理学的検査			12,944	12,614	11,663
D104	病理診断料			3,929	3,748	6,006
D105	病理学的検査判断料			5,678	5,673	3,135
D200	呼吸循環機能検査等			34,644	31,908	28,931
D215	超音波検査等			19,920	16,467	16,748
D218	監視装置による諸検査			113,764	113,325	114,090
D235	脳波検査等			1,216	1,326	1,082
D239	神経・筋検査			869	738	667
D243	耳鼻咽喉化学的検査			1,953	1,553	1,311
D255	眼科学的検査			37,722	37,656	33,989
D283	臨床・神経心理検査			151	125	79
D286	負荷試験等			4,345	4,164	2,464
D292	ラジオアイソトープ諸検査			2	4	
D295	内視鏡検査			6,860	6,799	6,540
D400	診断穿刺・検体採取料			10,623	9,779	9,733
D999	分類できないもの			5,658	5,808	6,494
	総計			1,089,328	1,065,666	1,011,515
	平成16年度比			100%	98%	93%

# 資料7-a 検査実施件数の年度推移 (1)

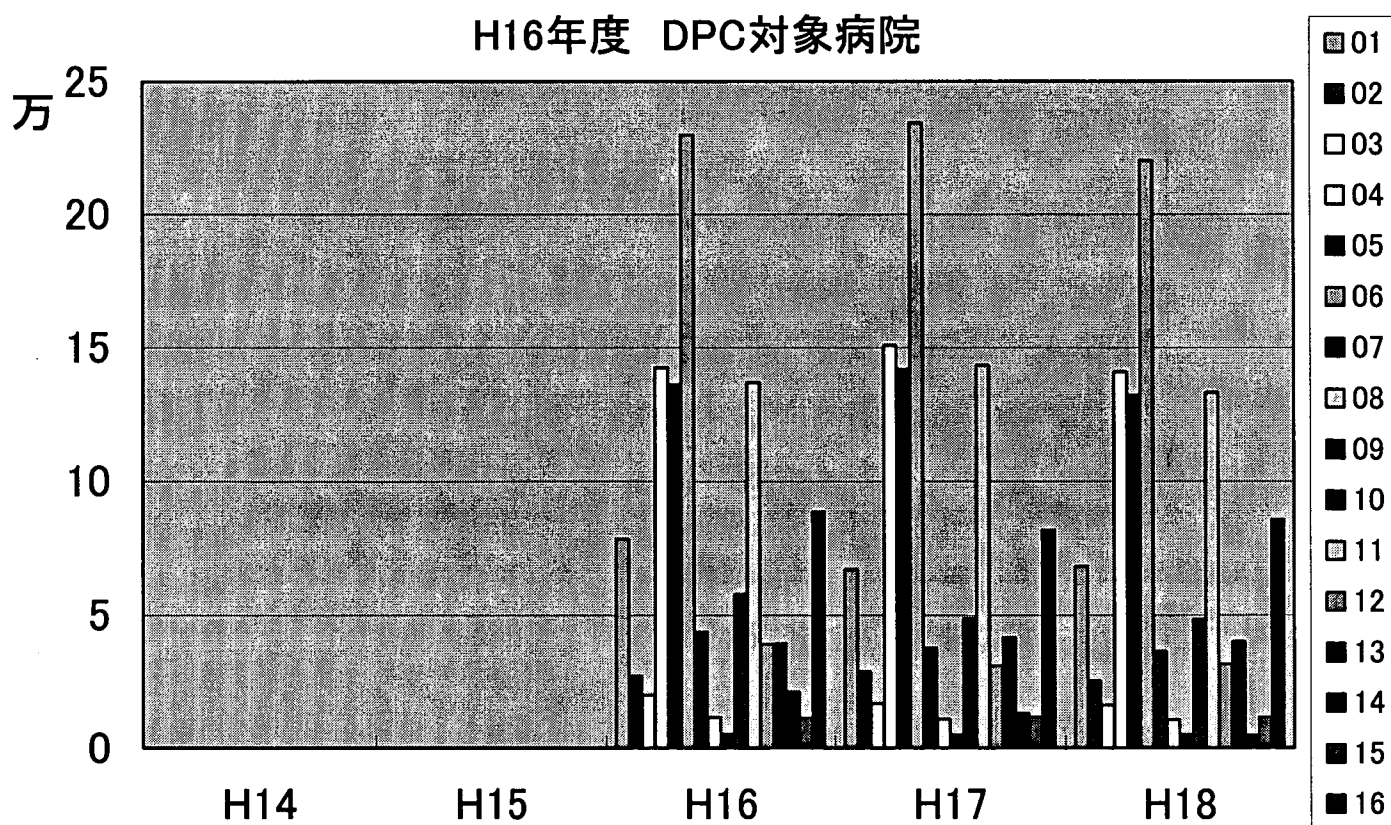
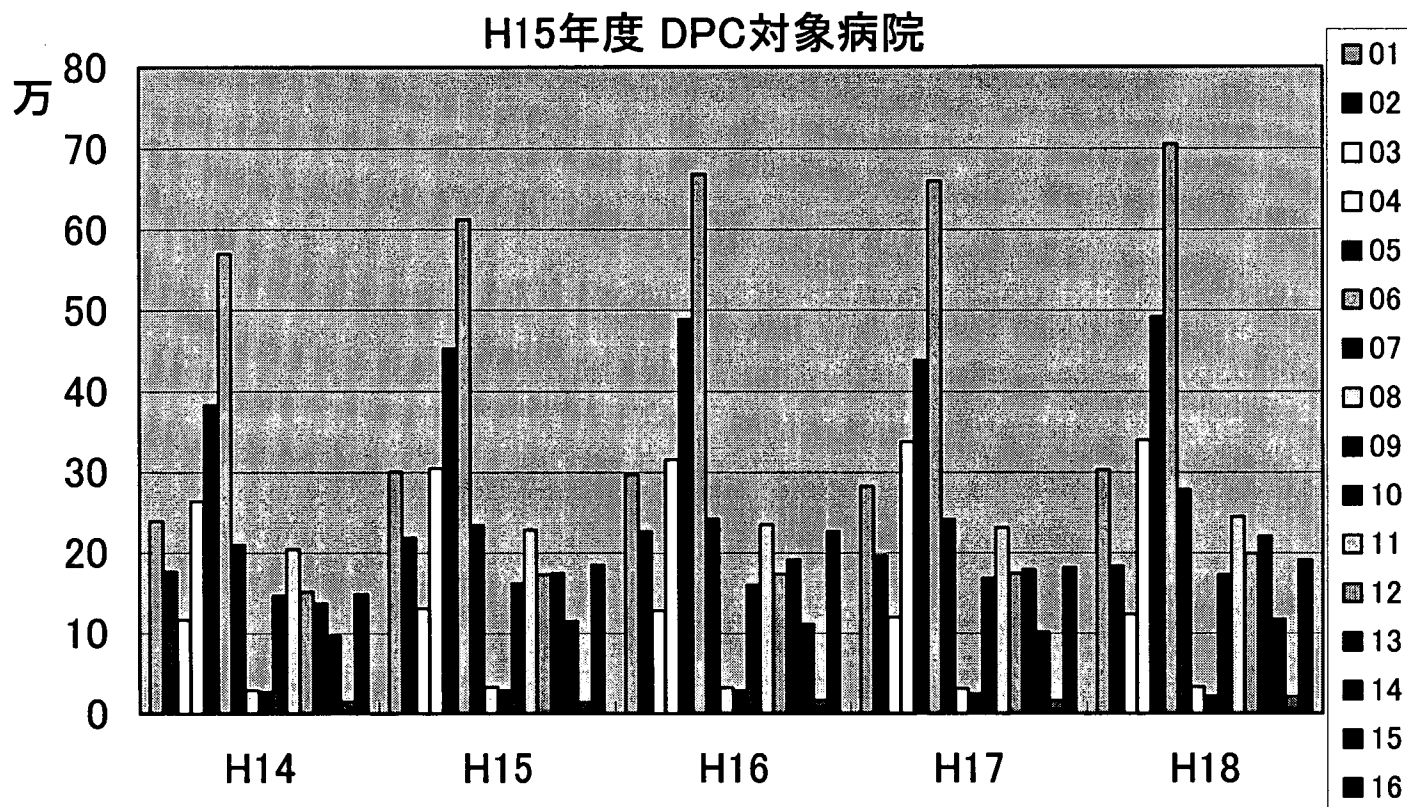
## H15年度 DPC対象病院



## H16年度 DPC対象病院

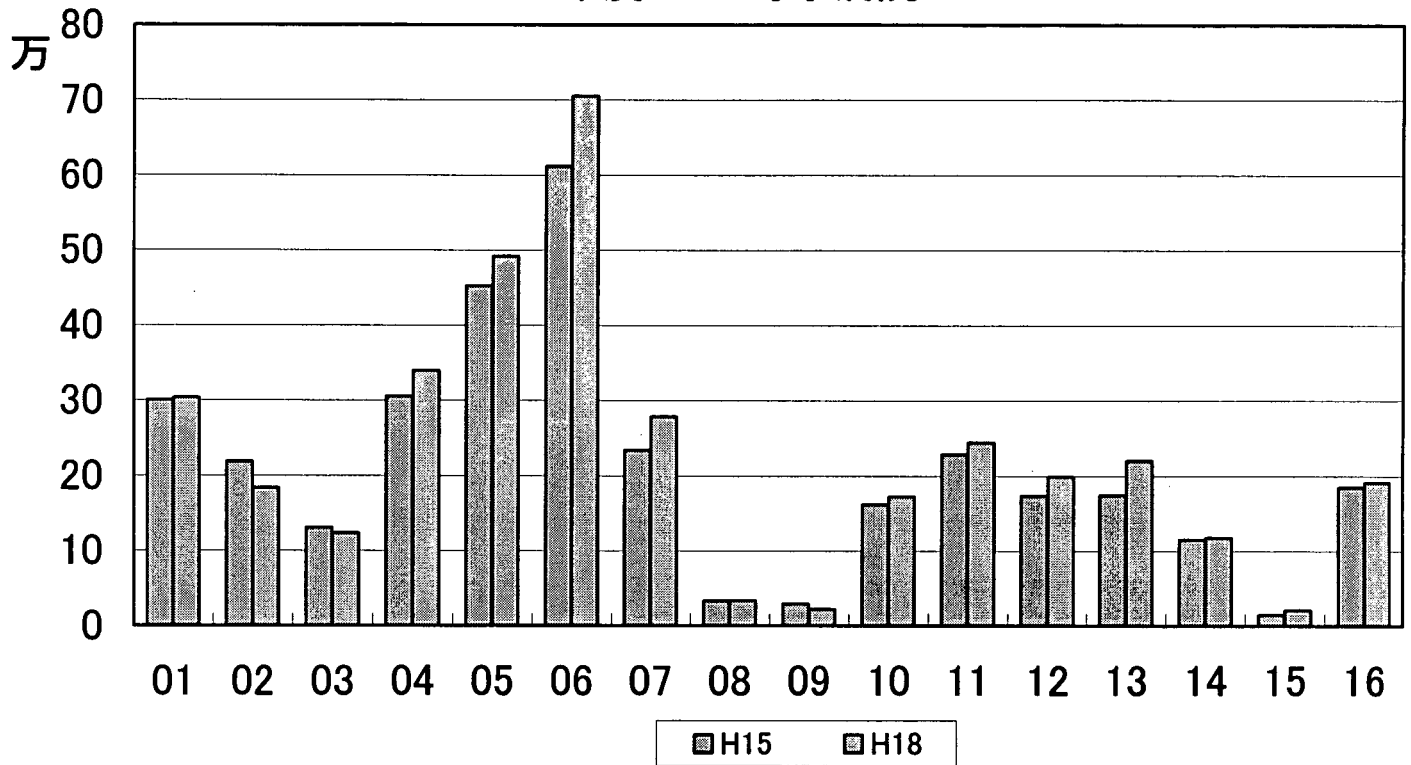


## 資料7-b 検査実施件数の年度推移 (2)

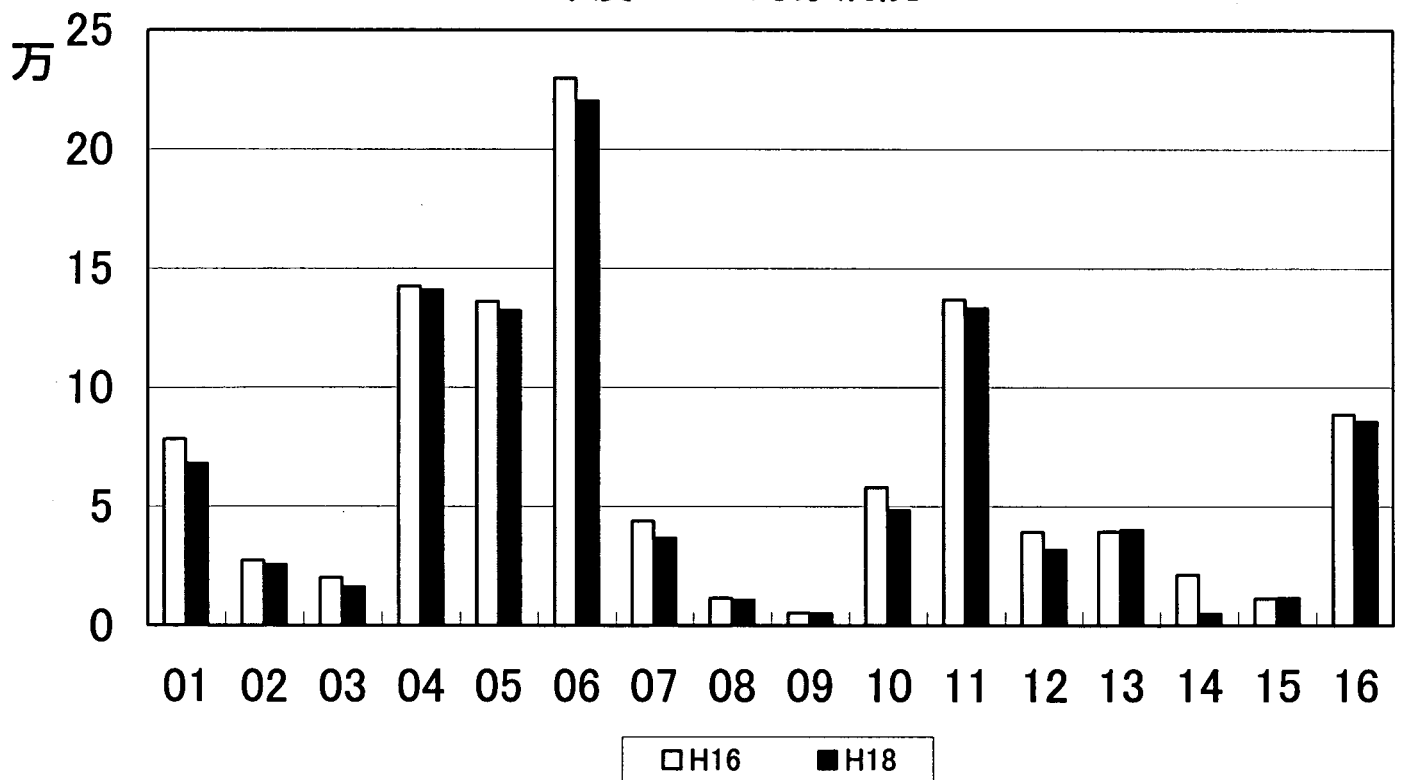


## 資料8 DPC導入年度とH18年度の比較

### H15年度 DPC対象病院



### H16年度 DPC対象病院



## 資料9 平成18年度 MDC分類別検査実施件数

MDC	名称
01	神経系疾患
02	眼科系疾患
03	耳鼻咽喉科系疾患
04	呼吸器系疾患
05	循環器系疾患
06	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患
07	筋骨格系疾患
08	皮膚・皮下組織の疾患
09	乳房の疾患
10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患
11	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患
12	女性生殖器計疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩
13	血液・造血器・免疫臓器の疾患
14	新生児疾患・先天性奇形
15	小児疾患
16	外傷・熱傷・中毒、異物、その他の疾患

